グリーンイノベーション基金事業
「次世代船舶の開発」プロジェクトに関する
研究開発・社会実装計画の一部改正案に関する意見募集の結果について

令和７年 10 月８日
国土交通省海事局

国土交通省では、令和７年８月 15 日から同年９月 17 日まで、グリーンイノベーション基金事業「次世代船舶の開発」プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画の一部改正に関する意見の募集を行いました。

その結果、本件に関して、２件の御意見が寄せられました。

お寄せいただいた御意見の概要とそれに対する国土交通省の考え方を別紙のとおりまとめましたので公表いたします。

皆様の御協力に深く御礼申し上げるとともに、今後とも国土交通行政の推進に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

１．実施方法

① 募集期間：令和７年８月 15 日（金）～令和７年９月 17 日（水）
② 周知方法：電子政府の総合窓口（e-Gov）に掲載
③ 意見提出方法：e-Gov

２．意見数

提出意見数２件（提出者数２名）

３．お問い合わせ先

国土交通省海事局海洋・環境政策課　パブリックコメント担当
電話番号０３－５２５３－８６３６

（別紙）

御意見の概要及び国土交通省の考え方

御意見の概要	国土交通省の考え方
まず 日本語は表意文字であり言語ですのでわざわざ解りにくいカタカナ英語を使うのは止めて 日本語を付けるようにして下さい 次に 温暖化対策 温室効果ガス排出量云々とありますが それを行うことで どれだけの温暖化に対策になるのか そこを明示して下さい やることの目標は出ていますが それによって どのような結果がもたらされるのかを知らされなければ 本気にはなりにくいと思いますが如何	・ ご意見は参考とさせていただきます。 ・ IPCC 第 6 次評価報告書において、今世紀末までに産業革命前比で温度上昇を 1.5 度未満に抑えるためには、人為的な二酸化炭素排出を 2050 年までに実質 0 とする必要があるとされており、国際海運においても、2050 年ごろまでに温室効果ガスの排出を 0 とすることが国際的に合意されております。これは、2018 年を基準とすれば、温室効果ガス約 7 億トンの削減に相当します。 ・ 本計画で開発するアンモニア燃料船・水素燃料船といった次世代燃料船は、2050 年において約 5.6 億トン/年の温室効果ガス削減につながっていくと見込んでおります。
目次についてはもう少し詳細な各項の情報を記した方が便利と思われる。 「遠距離・大型船では、燃料電池や蓄電池の出力・重量・サイズ等の制約により、水素・アンモニアを直接燃焼できるエンジンの開発が必要である。」とあるが、一定以上の規模の船舶は重量・サイズの制約が緩くなるので燃料	・ ご意見は参考とさせていただきます。 ・ 遠距離・大型船は、最低でも数千 kW の機関を搭載しておりますので、燃料電池で必要な出力を得ることは難しいと認識しております。

電池の搭載がより行いやすくなるのではなかろうか。 JR 東日本 FV-E991 系（試験車両）の燃料電池の出力が 180kwx2 なのであるが、この出力を考えると、燃料電池がそこまで出力容積比あるいは出力重量比が劣悪とは思われない。 また、モーターについての不安があるのかもしれないが、シンクロナスリラクタンスモータ（SynRM）であればレアアースについての問題の回避が行いやすく、また船舶であれば重量についての制限がある程度は緩いので、大出力のモーターを搭載する余地はあるのではないかと思われるのであるがどうであろうか。	
水素について、レシプロ機構で燃焼させる事について機器及び周囲（管路、また船舶全体。加えて上方にも。例えば橋を通過する際などには橋に対しても。）に与える影響についての不安がある。アンモニアについては直接燃焼させる場合（通常、窒素酸化物は発生するであろう。）、海の上であるとおそらく環境中への排出を行う事になるであろうし、窒素酸化物を SCR で処理するとしても、数%あるいは 0.数%の処理漏れが存在するだけで海の環境・生態系を大きく乱してしまう可能性が高いと思われるのであるが、どうなのであろうか。その事を無視し、また書類での言及・見解提示無くしてプロジェクトを進めるべきではないと思われるのであるが、その部分についてはちゃんと言及・見解提示を行うようにしていただきたい。アンモニアの直接燃焼については窒素酸化物の処理不全に	・ 周辺環境に影響を与えないよう、未燃燃料や排ガス中物質も十分考慮して技術開発を進めております。国際ルール等に沿った対策が講じられるよう、関係事業者を指導・監督して参ります。 ・ なお、本プロジェクトにおいては、アンモニア燃料エンジンから発生する N_2O の排出低減対策の技術開発も進めており、そのモニタリング・評価の結果については、「グリーンイノベーション基金事業の基本方針」に基づき原則公開することとされています。

より生態系への影響が大きく存在すると思われるので、注意していただきたい。国際的に検証を行って結果を市民に示していただきたい。	